

令和7年度 御下賜金記念産業教育功労者表彰 祝辞

只今、公益財団法人 産業教育振興中央会 ^{うらの みつと} 浦野光人会長からの御下賜金記念産業教育功労者の表彰状を、5名の先生方に伝達申し上げます。

ご受賞、誠にありがとうございます。

受賞された先生方は、30年以上の永きに亘り、高等学校教育を通し、わが国産業教育の振興に寄与されました。

一口に30年と申しますが、振り返ってみますと、この間の社会情勢の変革は、誠に目まぐるしいものでありました。

我が国は、戦後復興から高度経済成長、安定成長を通じて、国民の生活水準を向上させましたが、皆様方が教職に就かれた1990年代は、バブル景気が崩壊へと進み、経済は停滞期に入り、国際競争力が低下し、企業収益は軒並み悪くなり、就職氷河期へと移りました。その結果、高学歴志向が助長され、就職を基盤とする実業系高校に向かい風が吹くことにもなりました。

このように日本経済が、決して順調ではない時代において、先生方は日々の生徒への学習指導、生活指導に加え、社会の状況に応じた的確な進路指導のために立ち上がり、卓抜した技術水準を有する優れた産業人を育て上げられたご功績には大きなものがございます。

さて、今日、世界は通信の高速化とともに、人工知能AIやIoTなど情報技術が急速に進展し、様々な分野への応用範囲が広がり、SNSの普及により簡単に自らが情報発信できるとともに、対話型の生成AIが身近なものとなりました。

そして、少子高齢化、情報化、グローバル化が急速に進展する中で、産業構造も大きく変化し、職業に求められる知識、技術・技能も急速に高度化してきています。

また、地球温暖化による気候変動、新型コロナウイルス感染症の発生、ウクライナやパレスチナでの紛争に象徴されるように、将来の予測が困難な時代になってきたと言えます。

このように、予測困難で変化の激しい時代だからこそ、我が国が将来にわたり豊かな社会を築いていくためには、常に学び続け、変化を恐れず対応できる柔軟な姿勢が必要ではないでしょうか。

また、これまで専門高校で培ってこられた生徒一人ひとりの個性や創造力を尊重する教育が求められます。そして、自らの将来の仕事に対し、明確な目的意識を持って学ぶ生徒たちの力が必要不可欠となります。

今こそ、専門高校と、我々産業界や大学、教育行政とが、手を携え、人的、物的な教育資源・モノづくり環境などを整えることにより、こころざし豊かで、これからの社会を切り拓き、新しい産業を創造していく力を身に付けた若者を育ていくことが重要です。

受賞された先生方におかれましては、今後とも、国の発展を支える産業教育に様々な立場で、豊かな経験と英知をもって、お力添えを賜うことをお願い申し上げます。

あらためまして、皆様の永年に亘るご労苦に感謝し、ご功績を讃えますとともに、ますますのご健勝を祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。

本日は、誠にありがとうございました。

令和7年11月4日 大阪実業教育協会 会長 今井敏之